

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢あすか通四丁目8-15		
自己評価作成日	令和6年12月23日	評価結果市町村受理日	令和7年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・御利用者様の笑顔が増えていくのがグループホームの役割と考えております。 ・小規模ホームにて常に近くに職員が居ります。他御利用者様も少人数にて顔馴染みが出来やすいです。 ・ふと迷いが生じ認知症から選択を間違えたとしても、不安が積もる前に支援を受けることが出来ます。 ・共同生活介護にて、それぞれに合わせて役割を担える雰囲気があります。 ・その雰囲気から承認欲求が増え、本来持っていた力や表情が戻ってきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、新興住宅地に立地し、周辺には支援学校や保育所、コンビニ、ドラッグストアがあり、生活環境は整っている。開設当初に定めた理念に基づき、利用者が楽しく暮らせることを目標に家族的な雰囲気を大切にして利用者の残された能力を活かし、お手伝いなどで日々の家事を担い合い、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。利用者の生活状況を、毎月お便りとして家族にお知らせしているほか、運営推進会議の資料を家族にも配布し、面会の機会などを通じて家族の要望等を伺い、介護サービスに反映させている。また、運営推進会議のテーマを開催ごとに提案し、マイナンバーカード、人材確保、身体拘束防止などについて、意見や提言を受けている。コロナ禍で地域との交流が制限されるなか、敷地内にアルミ缶の集積場所を提供するなど、地域との繋がりを大切にしている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	「評価機関：特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当時から変わることなく「温かい助け合いで笑顔が育ちます」を事業所理念としている。御利用者様間だけではなく、御利用者様と職員の助け合いも常時であり、また地域からの助け合いも実感している。	開設当初に定めた理念を施設内に掲示するほか、毎日朝礼で唱和して理念を確認している。利用者の残された能力を活用し、調理や掃除などのお手伝いを受けるなど、家族的な雰囲気を大切にした介護サービスを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当地区が新興住宅地として発展していく初期からホームが開所されており、拠点として地区のりサイクル缶の集積場としての認識もされている。	コロナ禍の流れで、従来行なっていたボランティアの受け入れや地域のお祭りの見学などは取りやめている。しかし、廃品のアルミ缶の集積場を提供しているほか、散歩の際に地域の方々から声をかけていただくなどの交流は続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍以降は再開できていないが、以前は地域と共催イベントを催し、御利用者様との触れ合いに職員と共に高校生ボランティアや地域住民様に関わっていただいた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員不足にて報告する会議から発展は成されていないが出席者から多大なご愛護を頂き大きな励みになっている。	運営推進会議ごとにテーマを定めて開催している。マイナンバーカード、人材確保、身体拘束防止などへの助言や提言を頂き、業務に反映させている。会議の結果を取りまとめ、利用者の家族に配布している。	消防署員や警察官をゲストとして招き、防災対策、徘徊者の通報などをテーマとした会議を開催し、ゲストからの助言や提言を業務に反映させ、介護サービスの一層の充実を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域支所の福祉グループ長様は運営推進会議にも御出席いただき御意見や御助言を頂戴している。その他にも関係する担当課に様々相談させていただき多くの支援にて運営している。	運営推進会議の席で委員の市の職員から、感染症対策などの助言があるほか、メール等を通じて、各種行政情報を得ている。要介護認定申請で窓口を訪れた際にも助言、指導を得ているほか、生活保護受給利用者に関連する指導も受けている。また、介護相談員は年2回来所して利用者の意向を把握している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特にも認定証ケアにとって身体拘束は御利用者様の気持ちの不安定を大きく助長するものだと認識している。	身体拘束防止委員は、職員5名で、3月ごとに開催して問題等を協議し、その趣旨を職員にも周知している。身体拘束の事例はなく、一部ベッドに鈴をつけ離床確認をしているほか、玄関の施錠も夜間のみである。特に、スピーチロックには留意し、職員間で注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に有り得ないこととして認識している。言葉遣いを含めた態度から注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護するうえで自立支援の考えは基本とし、成年後見等の制度利用は適合する御利用者様が あったら相談を持ちかける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約集結時、または解約に可能性が出た時点で話し合いの場を設け、必要に応じた支援をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者様方と職員は同じテーブル上で過ごす時間が多く、また通院時や入浴時は1対1で過ごす環境がある。御家族様方からの電話対応、面接対応は介護員が担っており、話しやすい関係づくりをしている。	家族に利用者の生活状況を毎月のおたよりで知らせ、運営推進会議の資料を配布し家族の意向を伺っているほか、面会や通院時に家族と面談し、意見等を聴いている。利用者からは、買物などの依頼があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は介護業務に入り職員の提案や意見を常に聞き、業務の効率化に即反映されている。	毎月の職員会議や申し送りノートでの記載のほか、日常的に随時、職員の意見等を聴いている。人員の減少による勤務時間の変更や夜間対応のため、夜間の専門員を配置している。職員の提案で食欲のない利用者へおにぎり、ハットを提供している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成時には休日や勤務時間の希望を募っている。毎月のホーム行事等は介護職員が主体となっている。介護職員の経験や得手不得手にて出勤者間で、分担できるチームワークを築いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修の他、経験や得手不得手に応じて職員同士で話し合う環境を築いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社運営のグループホームが他3箇所あり、情報交換や相互協力が成されている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約前から情報収集に努め職員間で共有して、支援の工夫や方法を把握。入居当初から信頼関係づくりを優先項目に支援できる準備をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に契約前から情報収集に努めている。現在の置かれている状況、現状に緊急を要す場合、御利用者様との関係性などで臨機応変な対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みをいただいた時点で、置かれている状況や介護力を把握し、参考と有り得そうな情報やホームに空室が出るまでの繋ぎの方法を提案させていただいている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は事務所に滞在せず、業務中の大半を利用者様と同じ空間で過ごしている。炊事や洗濯といった家事も一緒に行ない、若い職員に対して御利用者様が家事を教える場面も日常にある。関係性が深まるに連れ御利用者様方から支え合う気持ちが育ち、自己肯定感を抱いていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様からの電話や面会時の対応は介護職員が担う。対応を継続していく中で関係性が深まり、御利用者様当人を含めた3者間で雑談が増え、共に支援している意識が構築される。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や御友人の面会及び電話通話も可能である。また、各御利用者様の定期受診は入居契約前から通い慣れた病院を継続しているため、地元で凱旋することになる方も居られる。そこで知人と交流できる機会も作られる。	事業所では、町を取材したテレビ番組を収録し利用者に鑑賞してもらっている。地域へのお祭りへの見学などは、感染症対策で無くなったが、通院の際に病院内で知人や友人に会い、通院の帰りに馴染みのスーパーに立ち寄り自宅周辺も巡っている。お菓子や花を持参して来所する知人がいたり、親戚と正月やお盆に外出している利用者もいる。美容院には2名が出かけ、他は職員が散髪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	上記18番で記載した環境にて御利用者様間でも支え合う意識が自然にできている。他御利用者様を気に掛けることで社交性への意識が蘇り、自己肯定感や適度な緊張感が蘇って生活に張りが出てくる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居する多くの理由が医療機関への長期入院であり、入院が長期化したことでグループホームに戻れなくても、退院後の生活に対する相談や可能な支援を行なっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上記18番の環境にて、言葉だけではなく声のトーンや表情仕草、性格など御利用者様を把握するツールが取得しやすい。御利用者様にも遠慮せず打ち明けられる雰囲気づくりを努めている。	希望に沿って洗濯干し、たたみ、調理の下準備（皮むき、キザミ）、下膳、食器洗いのほか、モップガケなどのお手伝いを利用者は行なっている。食事やおやつのお菓子も希望を聞いて対応している。元教員の利用者には、食事挨拶などをお願いしている。趣味で、望遠鏡による星の観察をしている利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の情報収集時に加え、入居後も常に把握に努めている。失礼にならない範囲を理解しながら対応をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は共有時間を過ごす時間が長くなるほど御利用者様を把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が介護職員の記録を基にモニタリング、プランニングをしている。介護職員のスキル向上のなかで将来的にチームとして作成できることを目標にしている。	介護計画は、短期6月、長期1年ごとに見直している。ケアマネがケース記録や職員からの聴き取りなどを経て、評価記録表を活用して原案を作成している。家族に郵送するほか、電話で問い合わせ、家族の意向を確認している。投薬の変更など、医師の指示も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、または目的別に複数の記載項目を設けている。記録と口頭の報連相にて業務が実践されている。実践と評価を繰り返すことで介護計画が見直されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々を把握することで多種多様で臨機応変な余暇援助を工夫している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当地域は恵まれており福祉、医療、その他とも資源は豊富である。必要に応じた活用を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は当ホームに入居したからという理由で変更することはない。基本は入居前から継続した所を勧めており、御本人や御家族からの希望があった時には相談のうえで変更する。	入居前のかかりつけ医を受診し、家族同伴1名、他は家族の要請で職員が同行し、受診後に家族へ報告している。医師の指示により、家族が同伴する場合もある。精神、外科、眼科、皮膚科などの特別科も同様である。歯科は、訪問診療を受診している。コロナ、インフルエンザの予防接種は、協力医が対応した。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	殆どの御利用者様の通院を管理者が継続して担当することで各々の担当看護職と顔見知りとなり連携時の手助けと成っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	上記の通り、多くの病院との関係づくりは維持継続でき相談窓口との連携がしやすい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者が通院を担い、必要に応じてホームから御家族様の通院同伴をお願いする形が多いため、ターミナルケアの可能性が出た早期から、担当医師と御家族様を交えた話し合いが可能である。状況、状態に対応した手段を担当医主導で行なっていた。	入居前に施設で重度化した場合の対応について家族に説明し、了承を得ている。施設内での看取り経験はなく、重度化した場合は、医師の指示を受け家族の意向を確認したうえで病院等に移送している。終末期は、対応マニュアルに沿い、移送時までサービスを提供している。職員に他施設での看取り経験者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の経験スキルをみながら段階的に学んでいる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施。当該地域の自主防災組織からも協力を得ており、独居高齢者世帯等を対象にした災害時の巡回訪問の中に当ホームも加わっている。	火災の総合訓練を年2回開催し、1回は夜間想定訓練を行い、消防署員から「掛け声を大きく」との指導を得ている。今回の訓練は地域の自主防災組織に協力を依頼しないで行った。備蓄の食材は、米、水など3日分確保し、ガスコンロ、反射式ストーブも確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の関わる態度や工夫次第で御利用者様の心身の健康は大きく変わること常々理解している。	個人情報、パソコン資料はパスワードで、文書は書庫で施錠管理している。生活情報や業務上知り得た情報は、他者に漏らさないよう徹底している。利用者への呼びかけは、利用者の生活様式に従って対応している。居室への入室は、声掛け、ノックを励行している。名前の表示は、1名のみである。運営推進会議資料の掲載写真は、家族の同意を得ている。入浴、排泄の異性介助は、利用者の意向に沿い、同姓介助としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	18.23番を継続していく中での関係や雰囲気から成されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上。御利用者様方は遠慮なく、職員側は直接に其々のペースや希望を見聞きすることで関係性が深まっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同上。御利用者様方は遠慮なく、職員側は直接に其々のペースや希望を見聞きすることで相互に積極性ができている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日課になっている。食材は外注ではなく職員が買い出しから担っており自由度が大きく、干し柿用の渋柿や枝や葉が付いたまま野菜類などを扱うのは御利用者様の大きな楽しみになっている。その他にも盛り付けや下膳、シンクの掃除まで、多岐にわたって御自身方が分担して取り組んでいただいている。	本部の栄養士作成のメニューのもと、利用者の要望を聴き地元で食材を確保して職員が調理し、提供している。行事食として、バーベキュー、たこ焼き、芋の子汁、年越しそば、ニシメ、餅、チラシ寿司のほか、要望を聴き、お刺身、ノンアルコールビール、ケーキなどを提供している。家族からおやつや野菜などの提供もある。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	上記の通りで自由度が大きいため、状況に応じて食材や調味を選択しやすい。水分摂取は感染症対策にも重要にて工夫を凝らしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診をしていただく協力歯科医が居り、ホームの洗面台にて定期的に検査や治療が成され歯磨き習慣が維持されている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ回数を24時間チェックしており、排便排尿の頻度や習慣を把握している。一例として尿パッドを取り外す時間帯をつくる事がチェックから出来る、外したことで肌トラブルが減少するという効果がみられる。	排泄チェック表により、動向を把握している。声かけは2名で、他はそれぞれでトイレに行っている。介助も見守る程度で、一部ズボンの上げ下げにとどまっており、失敗した場合でも、パンツの交換と清拭等である。夜間トイレの利用も無く、布パンツ使用は1名で、他はリハビリパンツにパットを併用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の支援は便秘対策としても重要視している。食物繊維を意識した食事、腸内環境改善食品を朝食に付ける工夫をしている。昼食前は体操の時間を設け腹筋の運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体力、時々の体調を加味して週2～3回を組んでいる。職員と1対1で過ごす時間となり密なコミュニケーション機会にも成っている。	入浴は原則週2回とし、1日2名で午後に対応している。車イス利用者も普通浴である。利用者の要望があれば時間の変更などにも対応している。入浴時は職員との会話が中心で、鼻歌を歌っている利用者もいる。入浴剤のほか、季節に応じて菖蒲湯、ゆず湯を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活サイクルに合わせ、就寝や起床時間に強要はしていない。配膳後に起床しても置きしている。また居室以外でも和室や廊下のソファやベンチで休息できる場所を設けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院対応する職員が医師の指示の下、服薬の微調整を必要に応じて行ない、効果程度を把握して次回の通院時に相談する体制が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昼食前の体操以外は予めレクリエーション内容を定めることは少なく、個々が日課としていることを優先している。家事仕事も、体調体力に応じて職員が微調整することで自信を持って長く取り組める工夫を施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季以外は散歩や遠足を行事に取り入れている。御家族様と出かけられるケースも其々の御都合に委ね実現している。	天気の良い日は、周辺を散歩している。近くの公園にも出かけている。車での遠出は、感染症対策により無いが、通院の帰りに利用者の希望があれば近くを巡っている。家族と外出する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態にもよるが現金を所持している御利用者様も居られる。希望が無い限り必要品の買い物はホームで立替払いで済ませ、所持金は安心感、自尊心を損なわないことを目的と考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて直接に御家族様や知人に電話をかける御利用者様も複数いらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に天窗。廊下には大きな窓があり日光を多く取り入れている。和室も段差が無く、キッチンも食堂からの行き来がし易い開放型で活動意欲が期待できる構造となっている。	大方の引き戸から光が入り、白と木彫を基調とした施設は明るく、清潔感がある。広々したロビーには、食用テーブル、ソファがあり、思い思いの場所で、テレビの視聴、新聞、読書などでくつろいでおり、テレビ体操を行っている利用者もいる。壁には、季節の飾り、活動や日常の写真が掲示されている。温度は床暖、エアコン、加湿器などで適正に管理されている。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺に少人数で過ごせるスペースを意図的に設けている。居室以外でも独りや数人で過ごせる環境も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンス、カーテン以外は個々で自由に家具等を持ち込みできる状況を成している。	ベッドは個別のリースで対応している。クローゼット、カーテン、テレビ端子が設置されている。ハンガーラック、衣装ケース、化粧品、家族写真のほか、ぬいぐるみ人形などが持ち込まれている。ラジオ、望遠鏡を持ち込んでいる利用者もいる。居室は床暖房で、加湿器が設置されている。利用者の意向に沿った配置となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さの物がある。廊下、手すり、浴室には手すりや立位パーを設置している。		